

誠之の教育

3月号（第626号）
令和5年2月28日発行
文京区立誠之小学校

子供たちに寄り添って

校長 穴戸 敏和

最近、リアルタイムでTVドラマを見ることが少なくなったと言われます。私自身、スマホやタブレットを使ってインターネット経由で見たり、ハードディスクに録画して後日見たりということが多くなりました。警察や医療関係のドラマはこれまでもよく見っていますが、最近気になるのが、発達障害や手話を取り上げたドラマです。以前から人気のドラマもありますし、最近よく取り上げられているので、見えます。自分の教師としての見方なのだと思いますが、障害のある方とのコミュニケーションをどう取り上げていて、どう分かり合っていくのかということが気になっています。誠之小の子供たちの教育のために何か生かせることはないかという視点で見ている自分がいます。

実は、自分が知的障害学級担任だった頃、こんなことがありました。通常は、チーム・ティーチング体制で授業を展開することが多いのですが、国語や算数は、グループに分かれて、個別指導をします。子供たちの障害に応じて、ワークシートを作り、学習を展開していきます。一人の子は5年生の漢字、もう一人の子は2年生の物語文の視写、もう一人の子はカタカナの音読・・・といった学習を進めていました。どの子も課題に対して前向きに取り組んでいて、授業としては、順調だと思っていました。ところが、ある子が、ぴたっと文字を書かなくなったのです。その子にそばで話を聞こうとしても何も答えません。「どうしたの。」「どこか分からないことがあるの?」「できなければ次のところに進んでいいですよ。」など、声を掛けてみますが、その子は、何もしませんでした。どうすることもできず、その授業時間は、過ぎて行ってしまいました。今思えば、自分の未熟さに腹が立ちますが、その子は、何もなかったというわけではなかったのでしょう。自分なりの訴えをしていたのだと思います。「これだけ頑張りました。先生見てください。」という訴えだったのでしよう。私は、その無言の訴えを読み取ることができませんでした。その時は、そのことが分からず、先輩教員に話すと、「一人一人の子に寄り添うことが大切です。」といった趣旨のアドバイスを受けて、改めて自分の指導を見直すことができました。その後は、その子の特性に応じて、少しでも寄り添って指導するように努めました。

ドラマの話に戻りますが、やはり「寄り添う」ことが互いのコミュニケーションには、最も大切なことなのだと感じます。たとえ言葉によるコミュニケーションができなくても、相手を思いやって、「寄り添う」ことで信頼関係が築かれるのだと信じています。



小学校6年間で振り返って

あと少しで卒業を迎える6年生。小学校生活の思い出を振り返りました。

成長したこと

僕が誠之小学校の6年間で成長したと思うことは、失敗から学んだことを次に生かすということだ。4年生の時に廊下は走らないとわかっているのに走って、相手を危険な目にあわせてしまった。この時、僕は走ったことをひどく後悔した。このようなことをこれから絶対にしないために、次のことを常に考えて行動することの大切さを学んだ。これから中学生になっても、常に次のことを考えて生活していきたい。

音楽会

僕が6年間で、印象に残ったことは、音楽会です。

5年生の時、演奏した「アフリカンシンフォニー」は、夏の甲子園や春の選抜などで流れている、自分の好きな音楽です。そのような音楽を演奏できたということがうれしく、印象に残りました。また、「ロックトラップ」も、音楽会で演奏しました。太ももや肩、胸などを使う演奏は初めてでしたが、たくさん練習をしたことで、うまくできたことは今でも印象に残っています。

人と関わる力

私は、学校生活の中で「人と関わる力」を高めました。なぜなら、人と話し、相手の意見などを聞くことで、自分の意見もより良いものになるからです。学校ではクラスメイトだけではなく、他学年との交流もあるため、より多くの人に積極的に関わり、他学年の意見も多く取り入れるようにしました。中学校に入っても、誠之小学校で高めた「人と関わる力」を生かしていきたいです。

友の大切さ

僕がこの6年間の生活で学んだことは、友の大切さです。生活する上で、友達の存在は欠かせないと思いました。今までの僕はそんなことを考えたことがありませんでしたが、友達の言葉で自分を振り返ることができ、その大切さに気付くことができました。中学生になっても、友の大切さを常に思い、行動していきたいです。

培った経験を

私が小学校生活で一番心に残ったのは学芸会です。2回の経験はどちらも大切な記憶です。1年生の学芸会は、初めてで緊張したものの努力した結果をほめてもらえると、とてもうれしかったのを覚えています。4年生の学芸会では、他クラスの人とも現状共有や練習をする必要があり苦労したのを覚えています。良いことばかりではない記憶ですが、小学校を卒業した後も役に立つ経験をこれから生かしていこうと思います。

友情

小学校生活で一番大切にしてきた言葉は「友情」です。その理由は、一人ではやっていけないことがあるからです。例えば、運動会の表現運動。6年の組体操は一人でもバランスを崩したり、失敗したりしてしまいます。そんなとき、みんなの友情で一致団結するとどうでしょうか。気持ちよく終わらせることができます。学校生活で友達との時間を大切にすることを通して、一人ではできないこともできるようになりました。これからも友情を大切に生活していきたいです。



最高学年に向かって



今年度もあとわずかとなり、5年生の子供たちも自分の成長を振り返る時期となりました。1学期には、初めて委員会活動に参加し、学校のためにいろいろな場面で5・6年生が働いていることを知りました。自分たちも、責任感をもって仕事ができるようになりました。2学期には、就学時健診で来年度入学してくる園児たちのために、番号札となるメダルを作りました。4月から1年生のお世話をするのが楽しみになりました。また、展覧会の会場作りのために、展示台となる机の搬入や搬出を行いました。これまで知らなかったけれど、学校行事の度に6年生がこうやって準備をしてくれていたのだと初めて気がきました。

そして、3学期。5年生にとっての3学期は、「6年生の0学期」です。4月に「最高学年」としてスタートが切れるように、今まさに準備の真っただ中です。

わくわく班 新リーダー



一番の大仕事は、縦割り班活動「わくわく班」のリーダーを6年生から引き継いだことでしょう。下級生たちが見つめる中、前に立って指示を出したり説明したりする緊張感や、計画通りに進まないときの不安や焦りも、初めて味わうものでした。「6年生が、休み時間も使って準備してくれていたなんて知らなかった。」「低学年の子が分かるように説明するのが難しかった。」、リーダーを務めることの大変さや、6年生への感謝と尊敬の念を感じた5年生も多くいました。その中でも、「みんなが真剣に話を聞いてくれてうれしかった。」「1年生が喜んでくれてかわいかった。」、やりがいと楽しさも感じることができました。

「6年生を送る会」の動画撮影



「6年生を送る会」のために、社会科で学習したテレビのニュース番組制作をまねて、6年生に向けた番組を作りました。各クラスで趣向を凝らした動画を合わせ、心のこもった特番ができました。

卒業式の入場音楽



卒業式に5年生は参列できませんが、リコーダーで吹いた曲を録音して、卒業生が入場するときに流してもらうことになりました。会場にいるつもりで、背筋をぴんと伸ばして練習しています。

3月の行事予定

3月の生活目標 『一年間のまとめをしよう』

日	曜	行 事	こどもひろば
1	水	4時間授業	
2	木	わくわく班活動	
3	金	4時間授業 卒業を祝う会(6年生以外は4時間授業)	
4	土		12:00～15:00
5	日		12:00～15:00
6	月		
7	火	全校朝会(放送)	
8	水	避難訓練	
9	木	6年生を送る会 わくわく班活動 キャリア教育出前授業(6年生)	
10	金	委員会活動 学びの教室指導終 安全指導日 いのちと心の授業(5年生)	
11	土		
12	日		
13	月		
14	火	全校朝会(放送)	
15	水		
16	木	PTA 総会	
17	金		
18	土		
19	日		
20	月		
21	火	春分の日	
22	水	給食終 大掃除	
23	木	修了式 卒業式予行演習(6年生)	
24	金	卒業式	
25	土		
26	日	春季休業日始	
3	3	3	
4/5	水	春季休業日終 前日準備(新6年生)	
6	木	始業式 入学式	

※今月・来月の予定は、感染症の状況により今後変更になる可能性があります。予め御了承ください。

道徳授業地区公開講座の御参観、ありがとうございました。

道徳授業地区公開講座には多数の御参観をいただきました。開始時刻や検温等にも御協力いただきまして、ありがとうございました。道徳通信にも、早速返信をいただきました。お子さんとの温かきやり取りが伺え、日々の学校での指導に生かしてつなげていきたいと思いをいたしました。一部を御紹介いたします。

- お互い家族に支えてもらいながら生きていることを実感しました。やってあげていることではなく、やってもらっていることによく気付ける人間になりたいものだねと家族で話しました。
- 働くことで、人の役に立てるうれしさと、自分のスキルが上がる喜びがあります。
- (伝統の遊びは、)世代を超えて、同じもので遊んで楽しむことができることが素晴らしいと思いをいたしました。
- ルールを守るために必要なのは、その先の想像力、他人や社会、自分に与える影響を良いこと悪いこと含め、きちんと考えることで、最良の選択ができるという話をしました。
- 友人と話すときに心掛けていることは、たとえ苦手だと感じる相手であっても、まずは話してみる、声を掛けることだそうです。始めは苦手でも、話してみたら面白いとか話が合うなどの発見があるとのことでした。 など